

2015/3期 第2四半期決算説明会

株式会社 **フォーバル**

2014.11.17

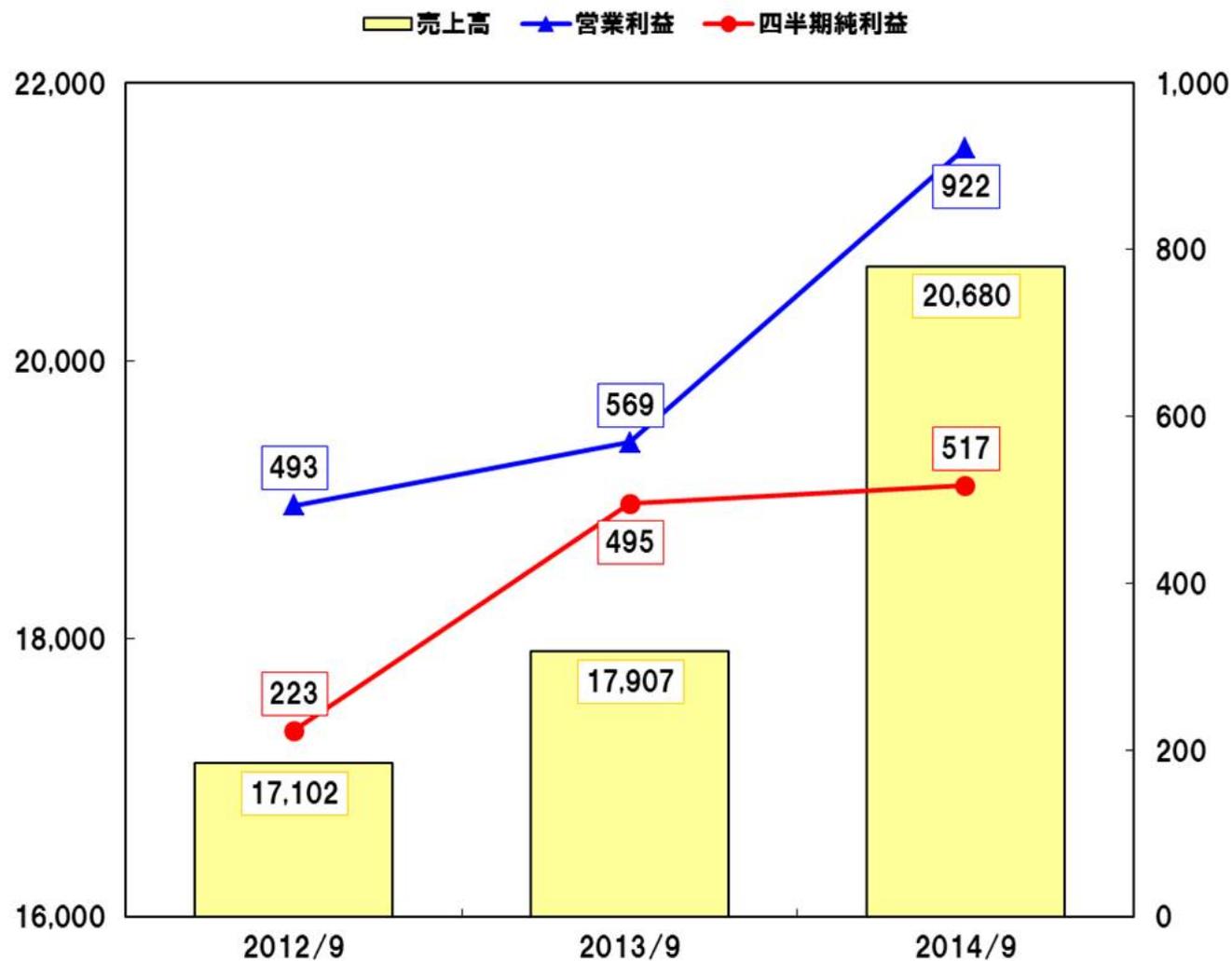
2015/3期 第2四半期連結決算概要

FORVAL 連結決算概要

| | 2014/9 | | 2013/9 | | 前年同期比 | |
|--------|--------|--------|--------|--------|-------|-------|
| | 実績 | 売上比 | 実績 | 売上比 | 増減額 | 増減率 |
| 売上高 | 20,680 | 100.0% | 17,907 | 100.0% | 2,773 | 15.5% |
| 売上総利益 | 6,009 | 29.1% | 5,277 | 29.5% | 732 | 13.9% |
| 販管費 | 5,087 | 24.6% | 4,707 | 26.3% | 379 | 8.1% |
| 営業利益 | 922 | 4.5% | 569 | 3.2% | 353 | 62.0% |
| 経常利益 | 895 | 4.3% | 573 | 3.2% | 321 | 56.1% |
| 特別損益 | △148 | △0.7% | 104 | 0.6% | △253 | — |
| 四半期純利益 | 517 | 2.5% | 495 | 2.8% | 22 | 4.5% |

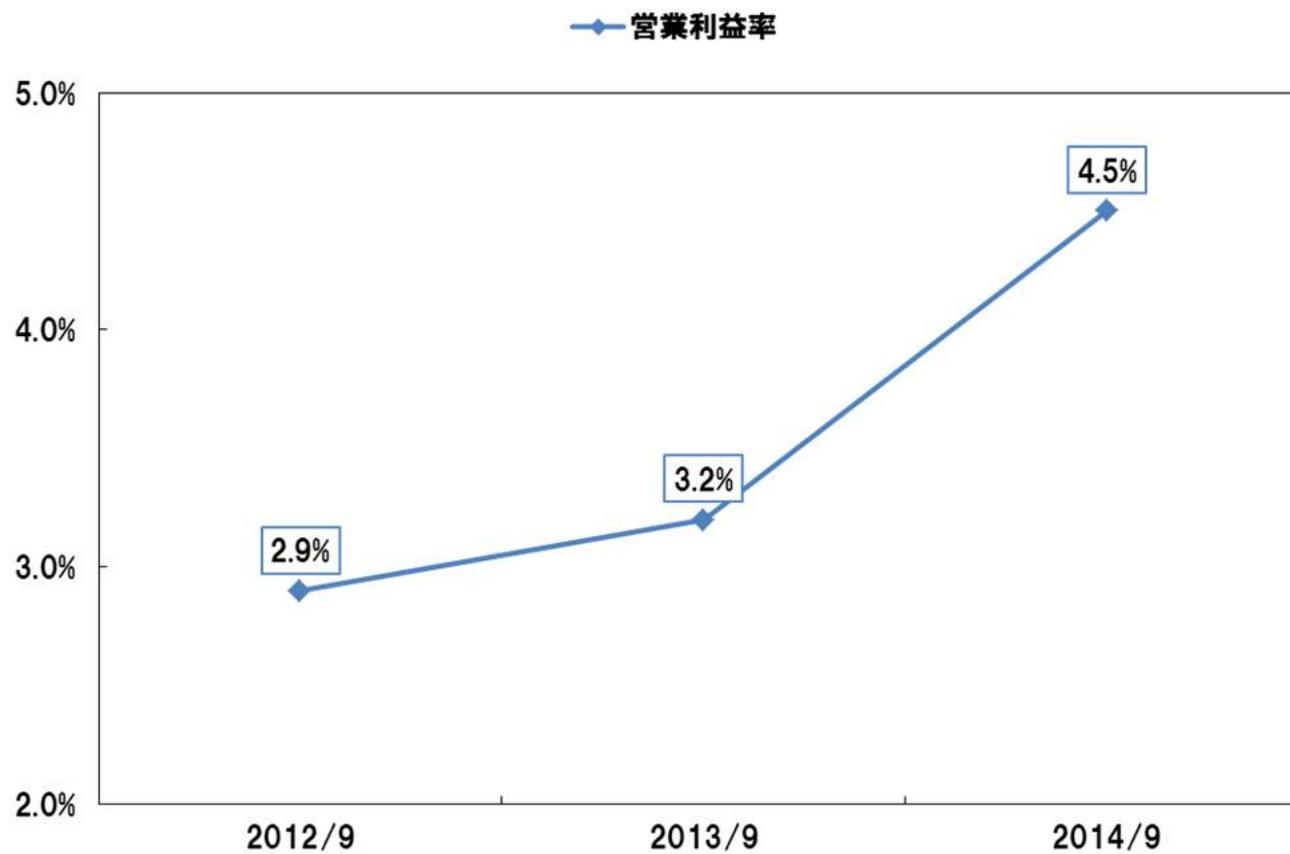
単位:100万円

15.5%増収 / 62.0%営業増益

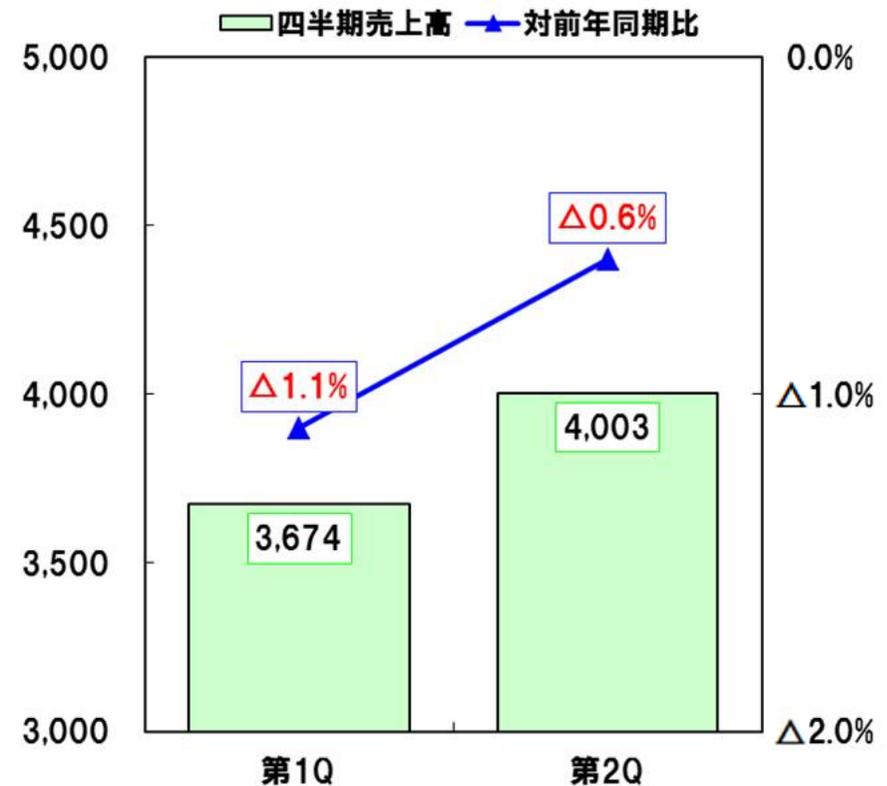
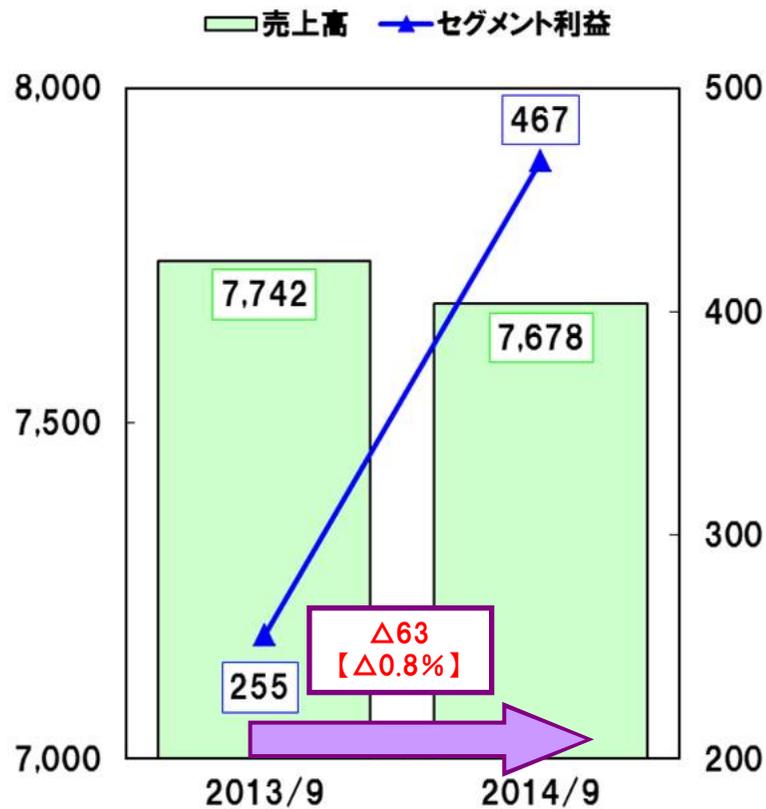


単位:100万円

前年同期比1.3ポイント向上



フォーバルビジネスグループ



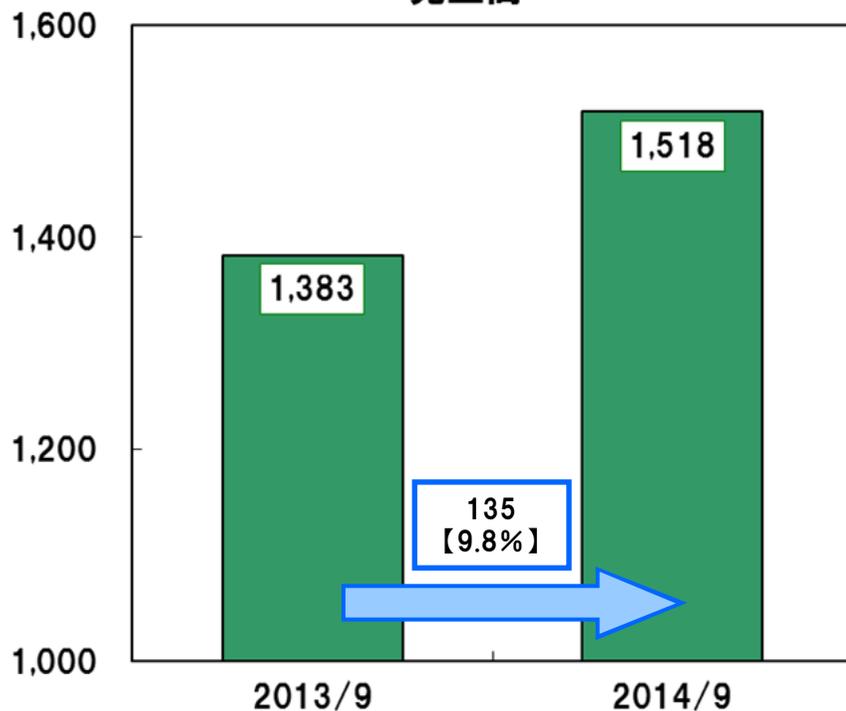
単位:100万円

アイコンサービスが順調に拡大/ビジネスフォンが減少

順調に拡大

(百万円)

売上高

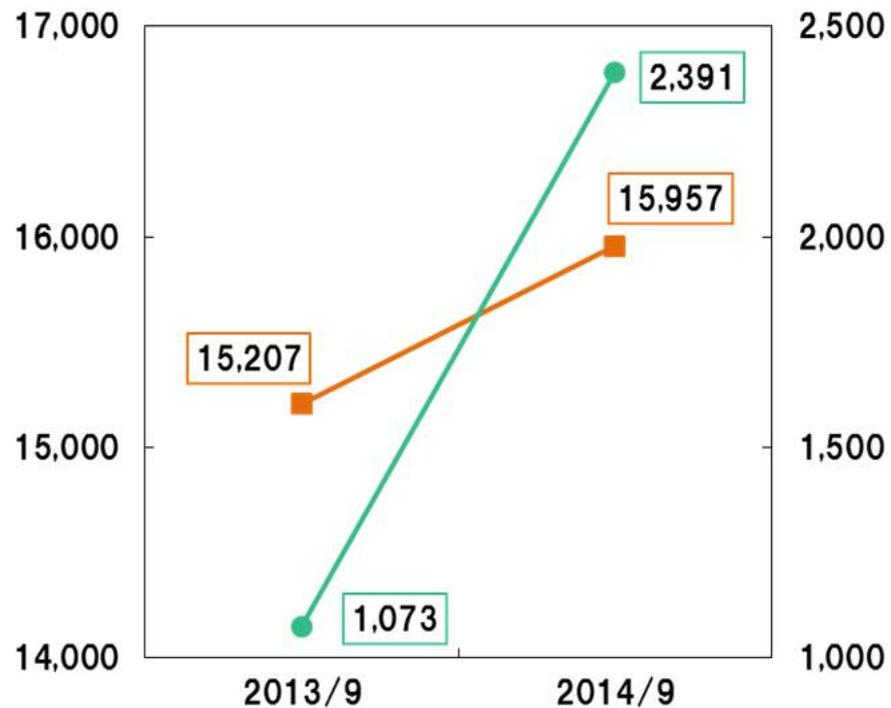


事業所数

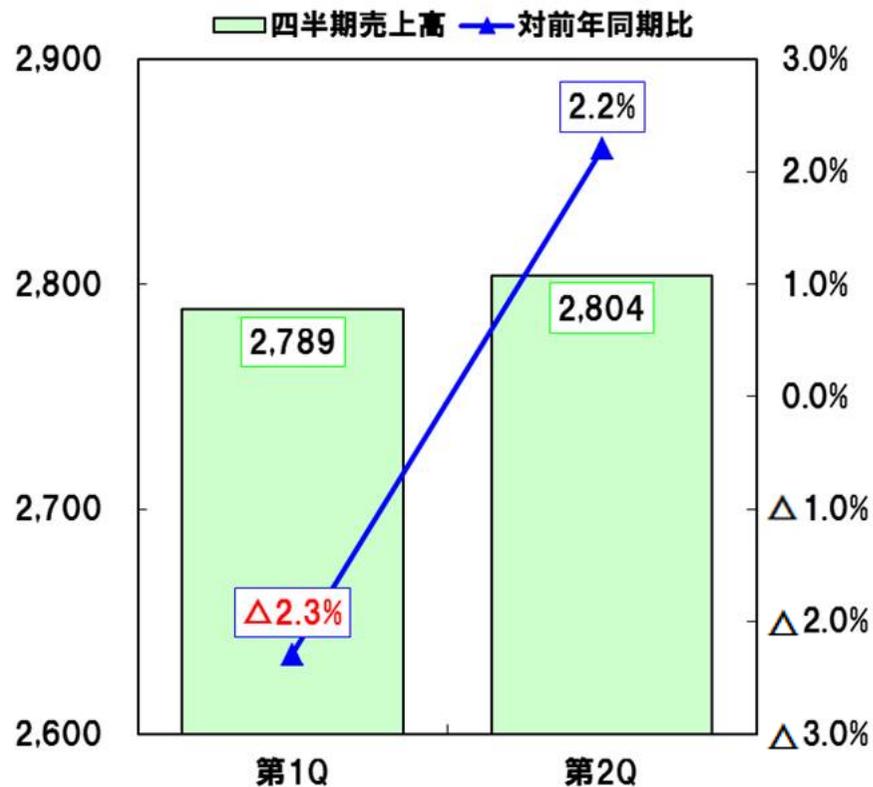
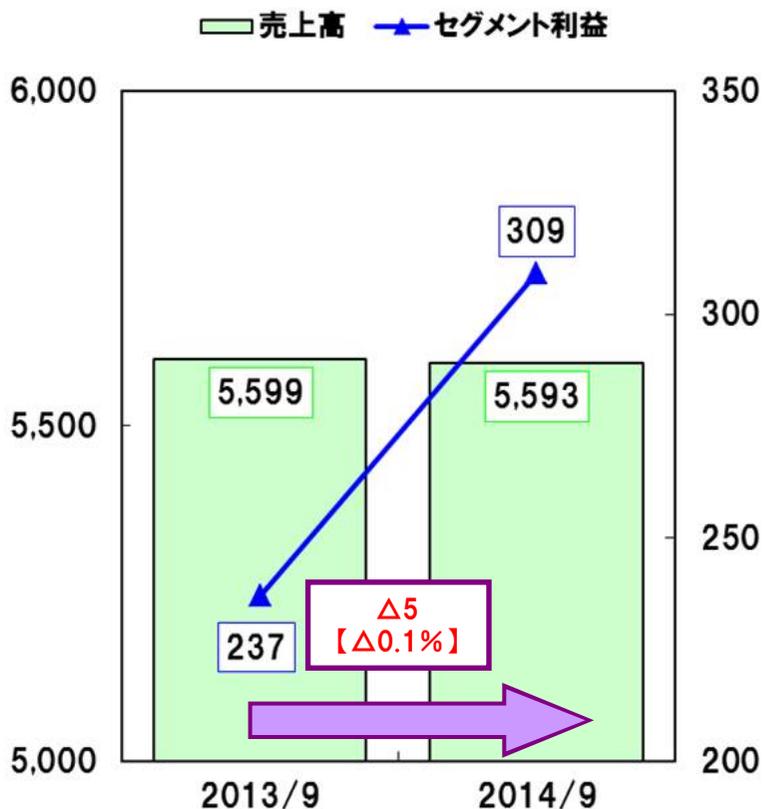
■ アイコン ● BRMC

(件)

(件)



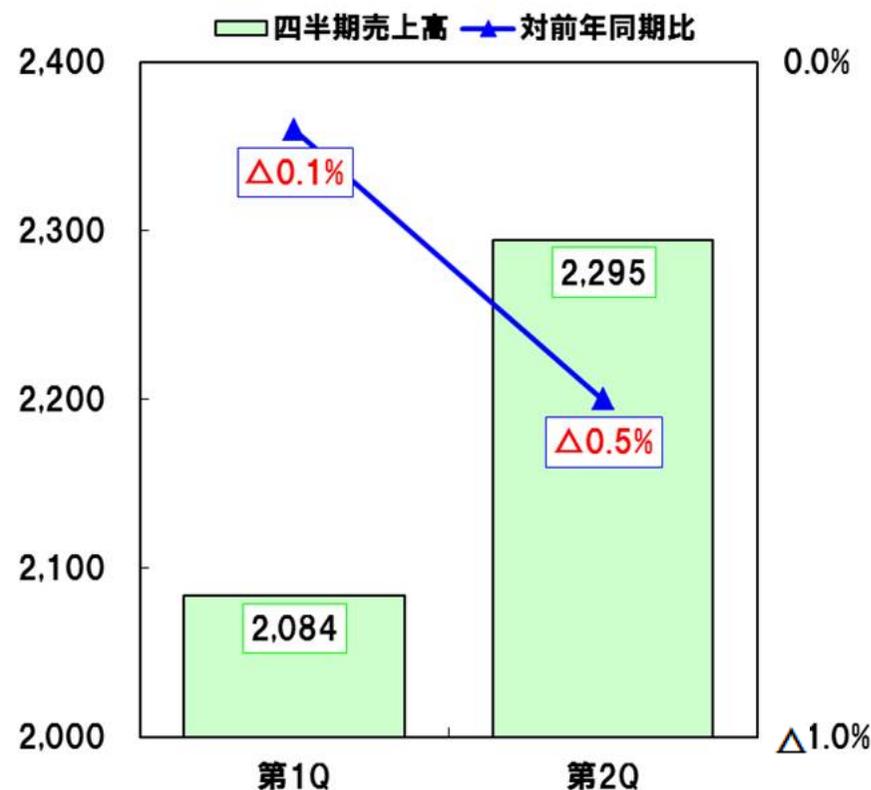
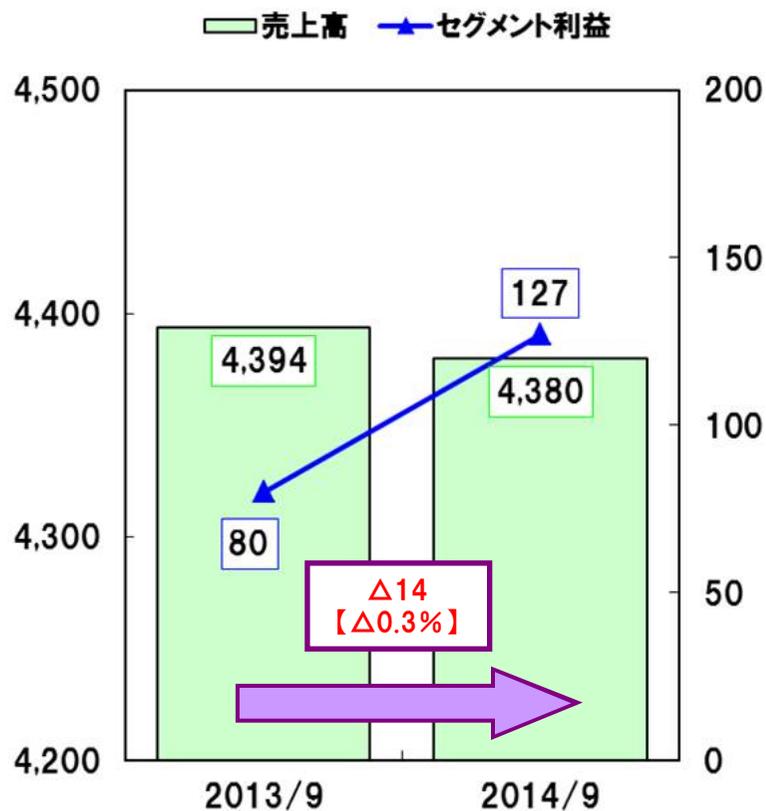
フォーバルテレコムビジネスグループ



通信サービス、商業印刷物の企画等が減少 / 保険関連が好調
回線系からネット系へと売上構成比が変化

単位: 100万円

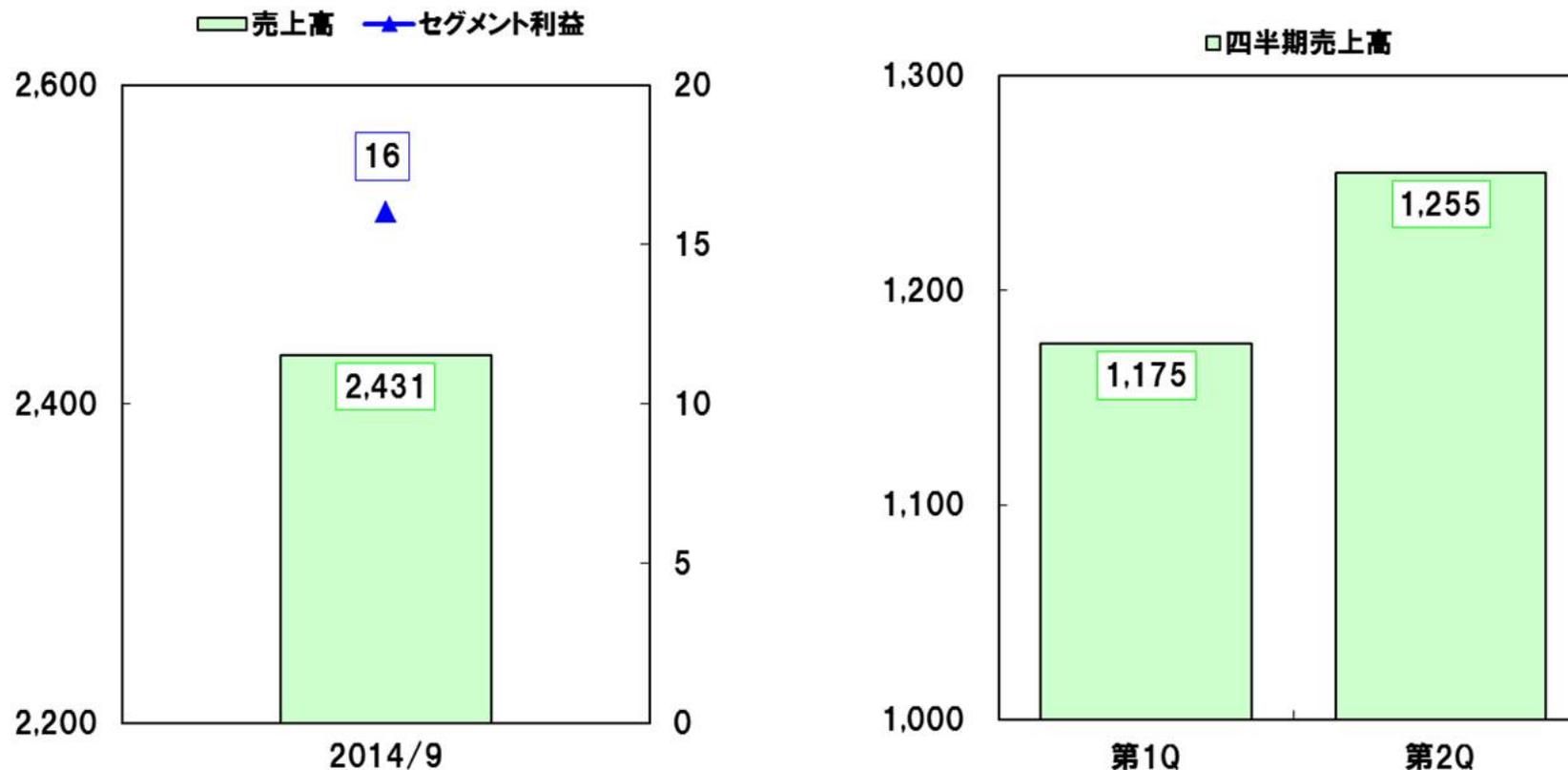
モバイルショップビジネスグループ



単位:100万円

**携帯電話の販売台数は前年同期比3.7%増 / インセンティブが減少
前年度の契約数増の効果でリベートやストック収益が増加**

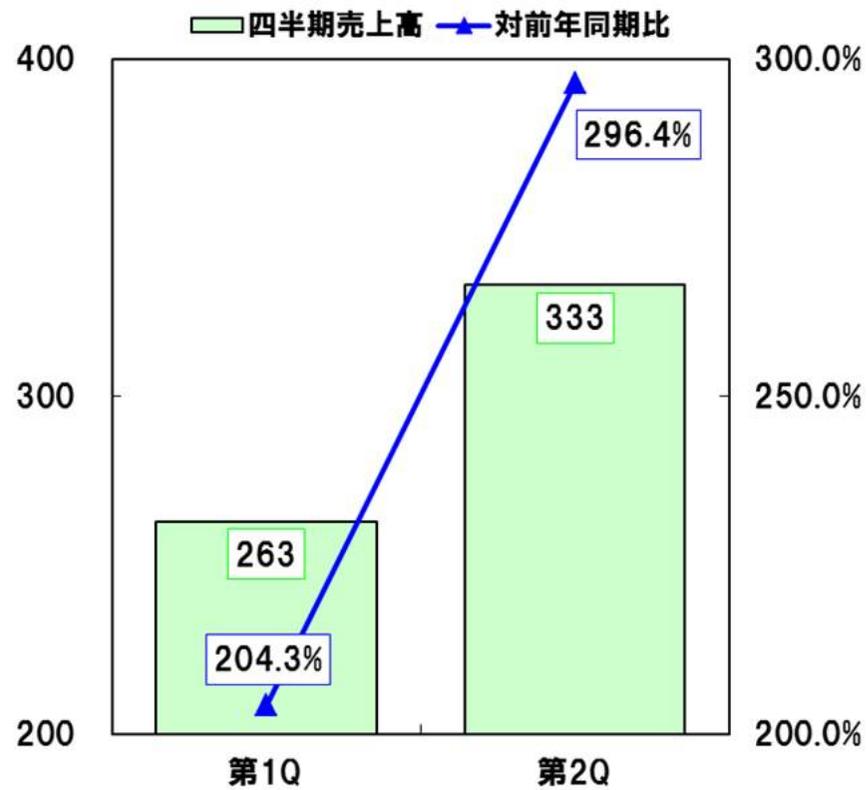
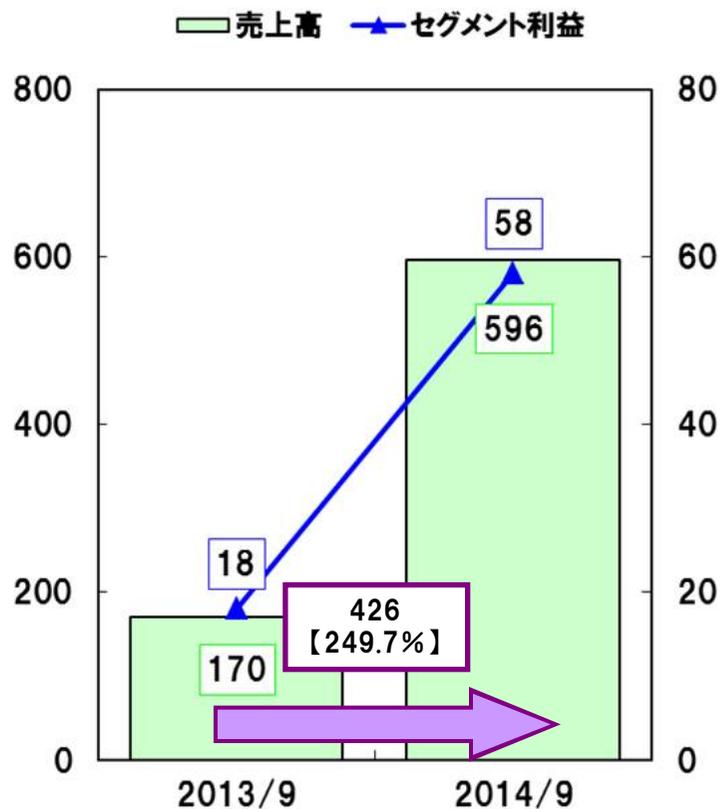
総合環境コンサルティングビジネスグループ



単位: 100万円

2013年12月に株式会社アップルツリーを子会社化

その他事業グループ(人材・教育分野)

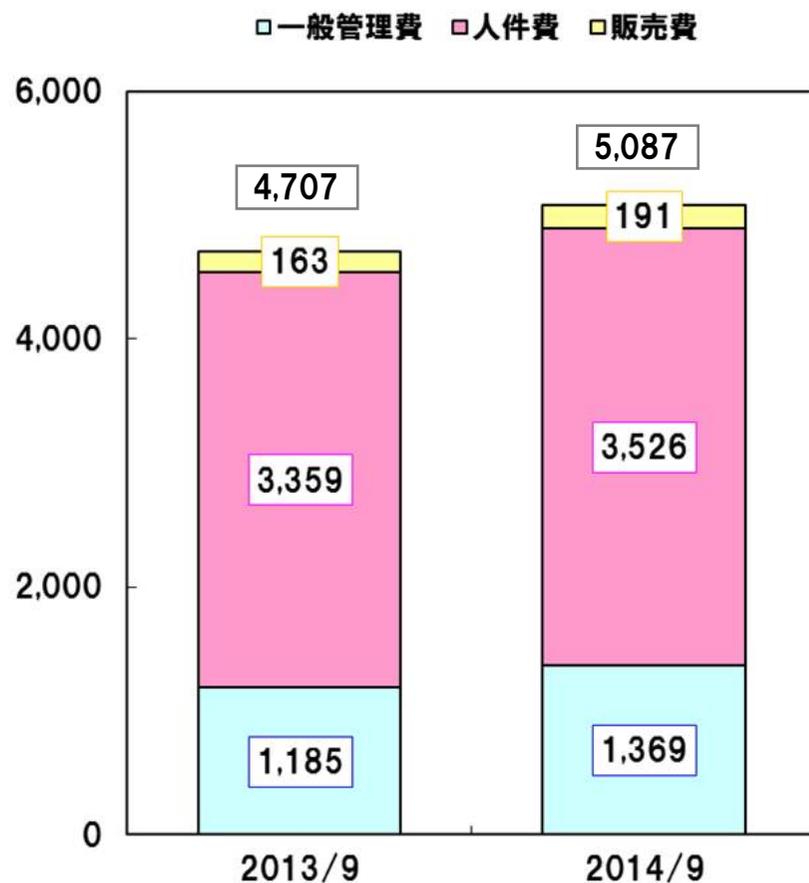


単位:100万円

2013年10月に株式会社アイテックを子会社化

売上高販管費率は1.7ポイント低下

売上総利益
13.9%増



前年同期比8.1%増

販売費

前年同期比 28【17.4%】

人件費

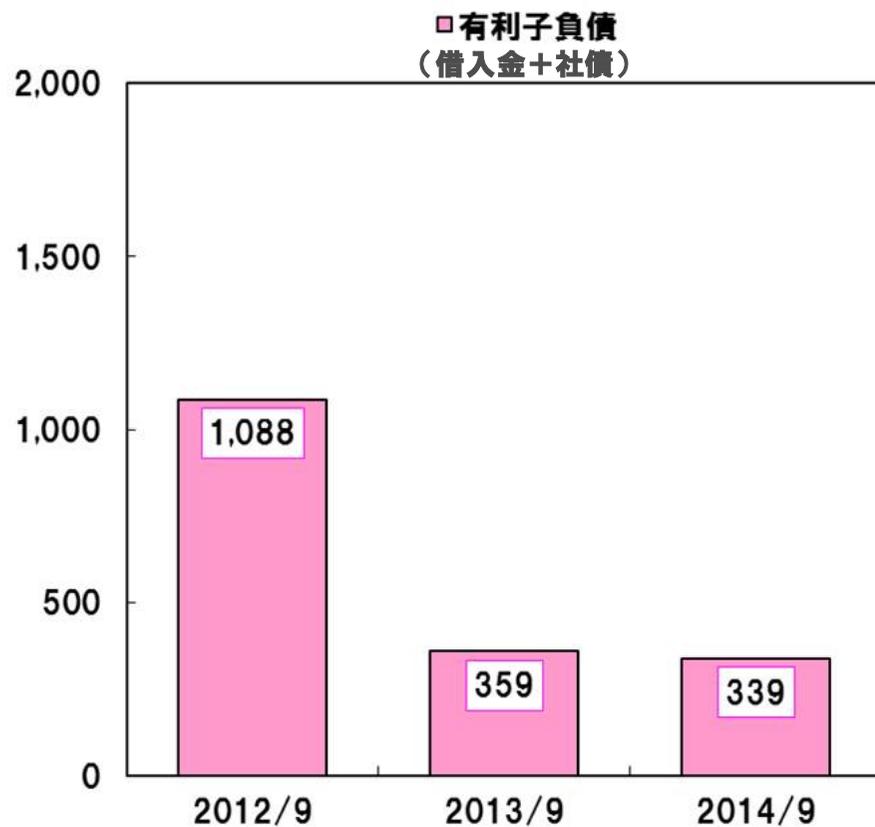
前年同期比 167【5.0%】

一般管理費

前年同期比 184【15.5%】

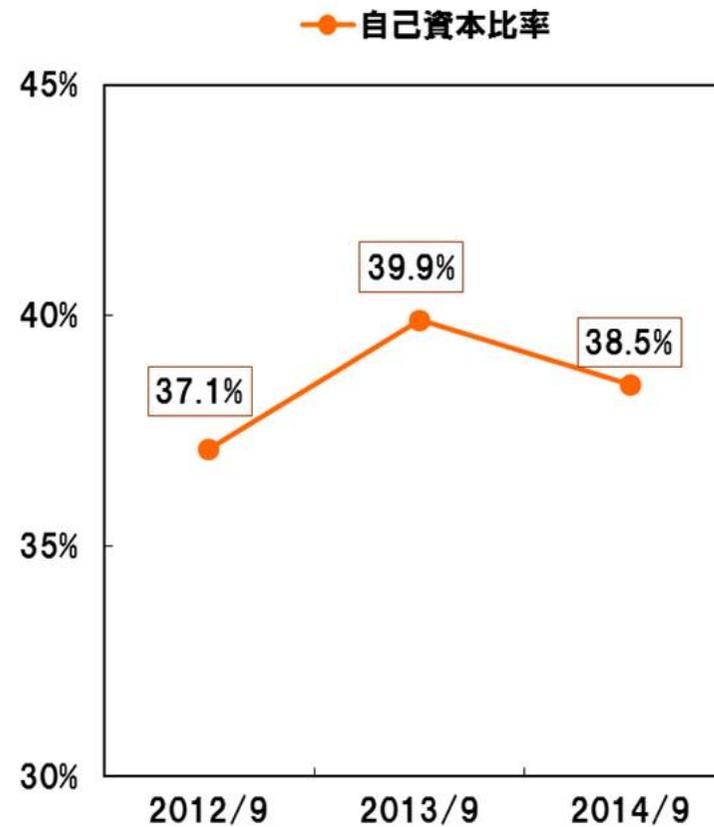
営業利益
62.0%増

単位:100万円



単位:100万円

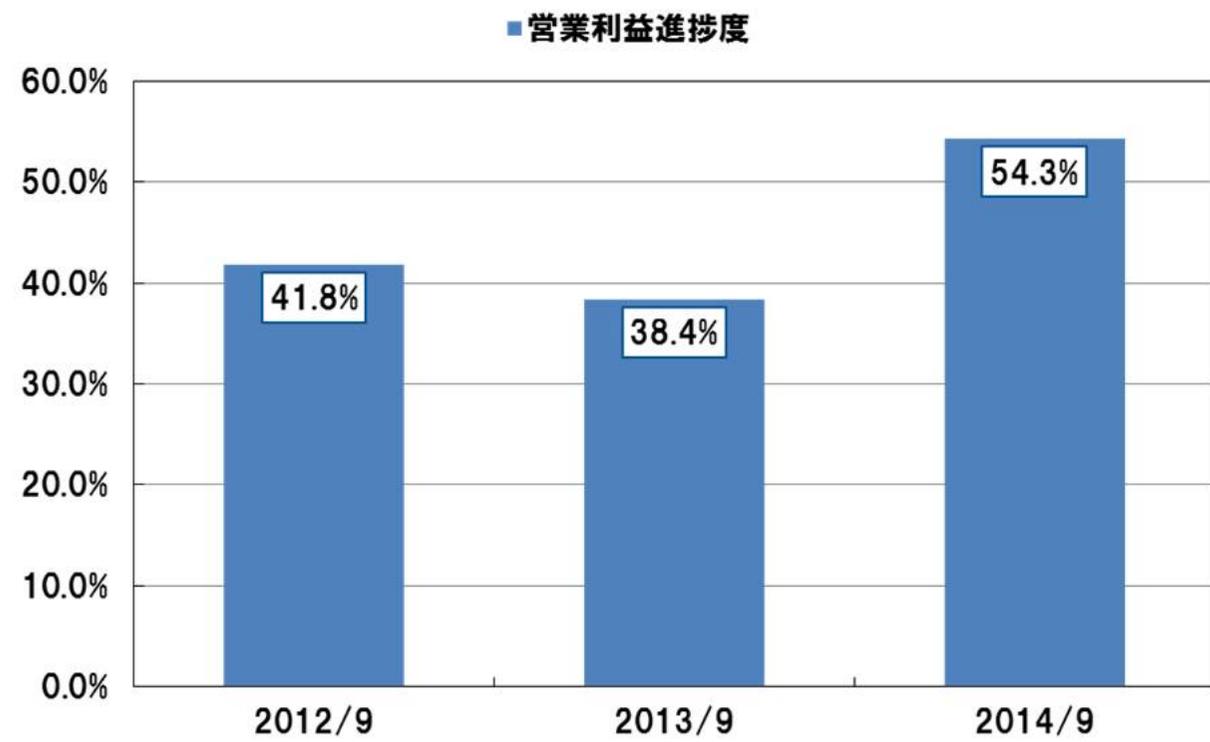
有利子負債の着実な圧縮



前下期に2社を子会社化した影響

2015/3期連結業績見通し

業績見通しに対する良好な進捗度



FORVAL 2015/3期連結業績見通し

| | 2015/3期予想 | | | 2014/3期 | |
|----------------|-----------|--------|------------------|---------|--------|
| | 予想 | 売上比 | 前期比 | 実績 | 売上比 |
| 売上高 | 44,000 | 100.0% | 4,556 【11.6%】 | 39,443 | 100.0% |
| 営業利益 | 1,700 | 3.9% | 218 【14.8%】 | 1,481 | 3.8% |
| 経常利益 | 1,600 | 3.6% | 113 【7.7%】 | 1,486 | 3.8% |
| 当期純利益 | 1,110 | 2.5% | 0 【0.0%】 | 1,110 | 2.8% |
| 1株当たり 当期純利益 | 83.71 | | | 83.71 | |
| 配当金 | 22.50 | | | 22.50 | |

特別利益
317百万円計上

単位：100万円

単位：円

FORVAL セグメント別業績見通し

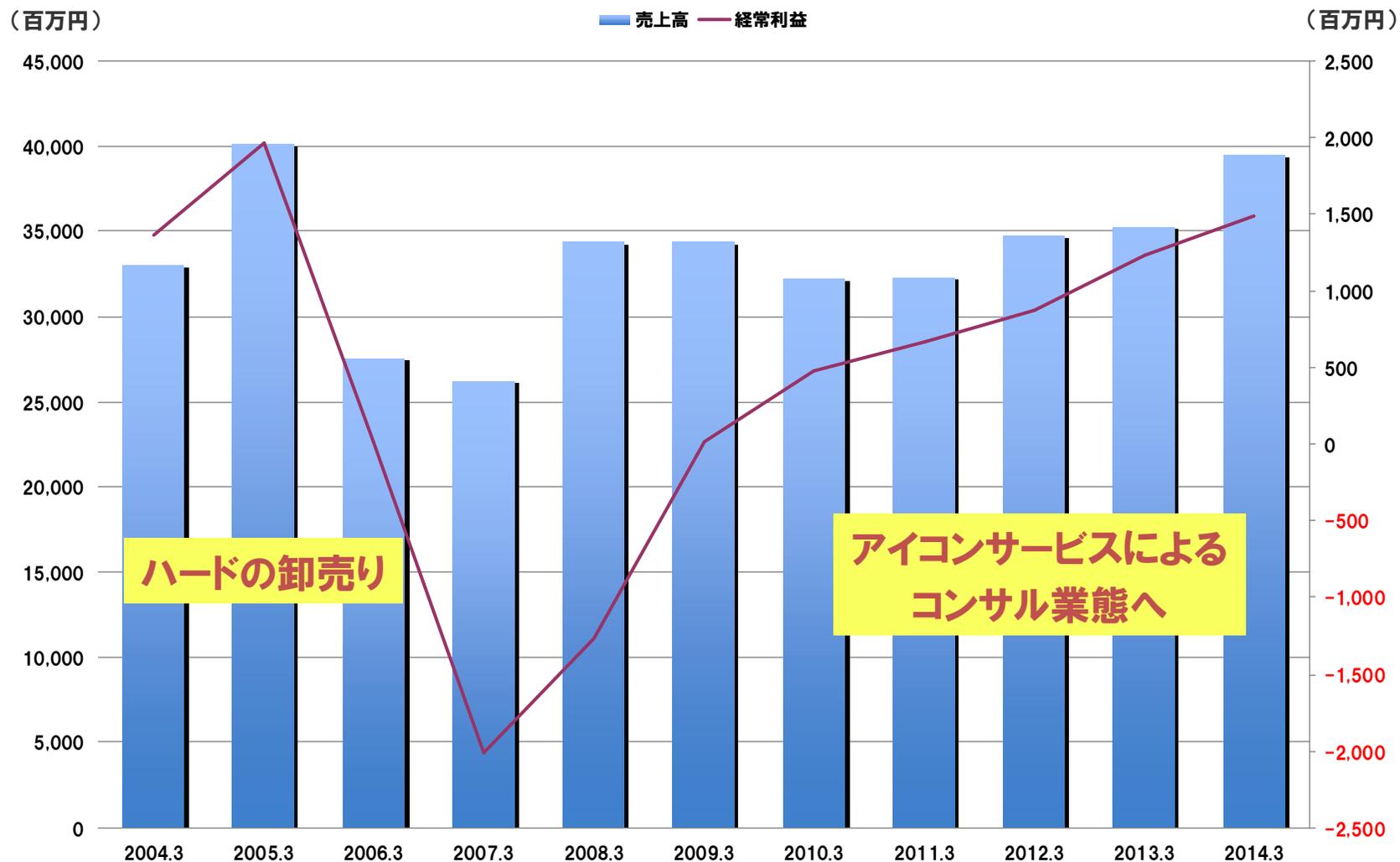
| | | 2015/3 | | | 2014/3 |
|--------------------------|---------|--------|-------|--------|--------|
| | | 予想 | 前期比 | | 実績 |
| フォーバルビジネスグループ | 売上高 | 16,700 | 522 | 3.2% | 16,177 |
| | セグメント利益 | 1,025 | 153 | 17.7% | 871 |
| フォーバルテレコム ビジネスグループ | 売上高 | 11,200 | △78 | △0.7% | 11,278 |
| | セグメント利益 | 520 | 48 | 10.3% | 471 |
| モバイルショップ ビジネスグループ | 売上高 | 9,900 | △277 | △2.7% | 10,177 |
| | セグメント利益 | 190 | 2 | 1.3% | 187 |
| 総合環境コンサルティング ビジネスグループ | 売上高 | 5,200 | 4,008 | 336.4% | 1,191 |
| | セグメント利益 | 40 | 27 | 210.8% | 12 |
| その他事業グループ | 売上高 | 1,000 | 381 | 61.7% | 618 |
| | セグメント利益 | 45 | 52 | - | △7 |

単位:100万円

フォーバルグループの成長戦略

FORVAL 事業転換(モノ売りからコト売りへの変身)

フォーバルグループの長期業績



アイコンサービス

中小・中堅企業の利益に貢献する

国内

海外



次世代経営コンサルティング

人材・教育分野

環境分野

海外分野

情報通信分野



新規事業



既存事業

人材・教育分野



株式会社アイテック

2013年10月子会社化

- ・情報処理技術者試験対策等のIT教育コンサルティングの提供

環境分野



株式会社アップルツリー

2013年12月子会社化

- ・太陽光システム等の代替エネルギーコンサルティングの提供

経営コンサルタントとしての評価が浸透

上半期で前期実績を大幅に上回る



アイコンサービスの更なる拡大のためOEMによるネットワーク作りに注力

BRMC

Business **R**estructuring & **M**anagement **C**onsulting

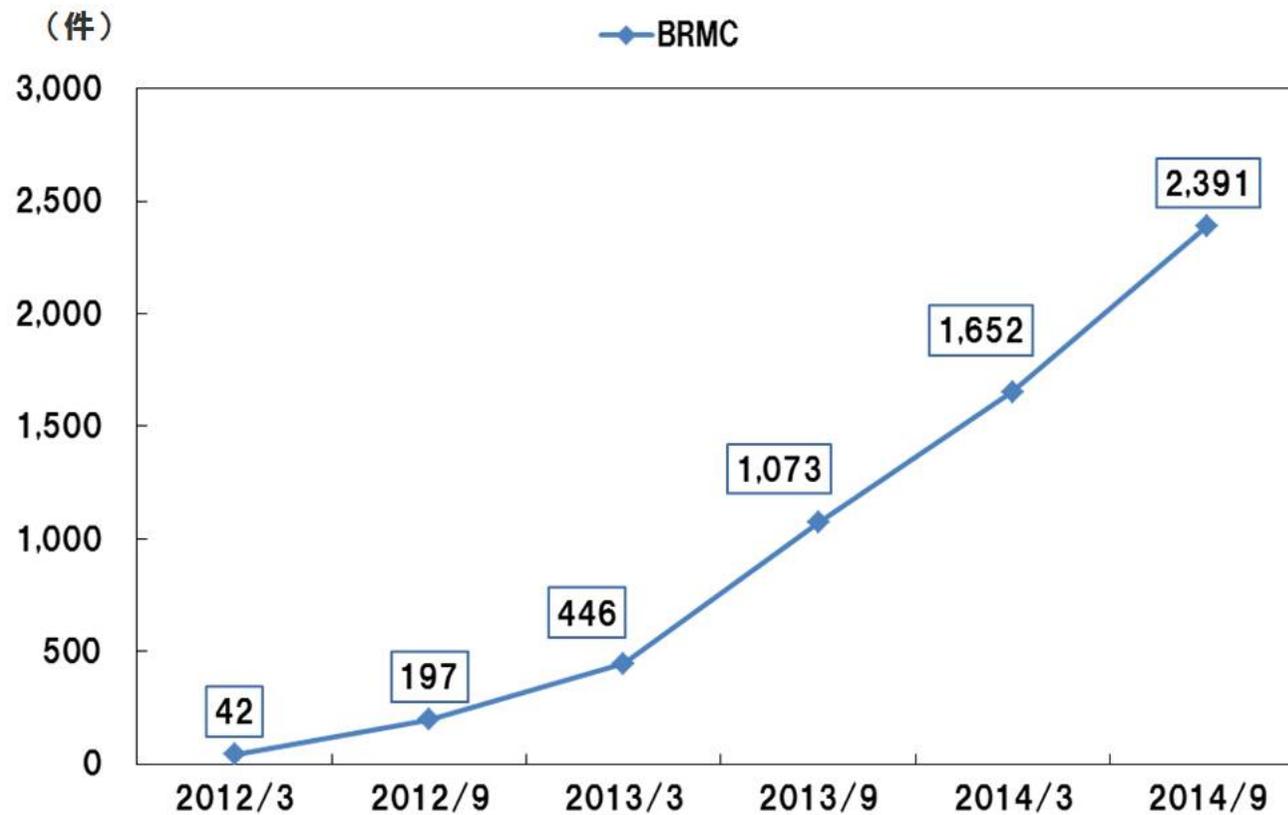
差別化された
新しいビジネスモデルの
ノウハウ自体を提供



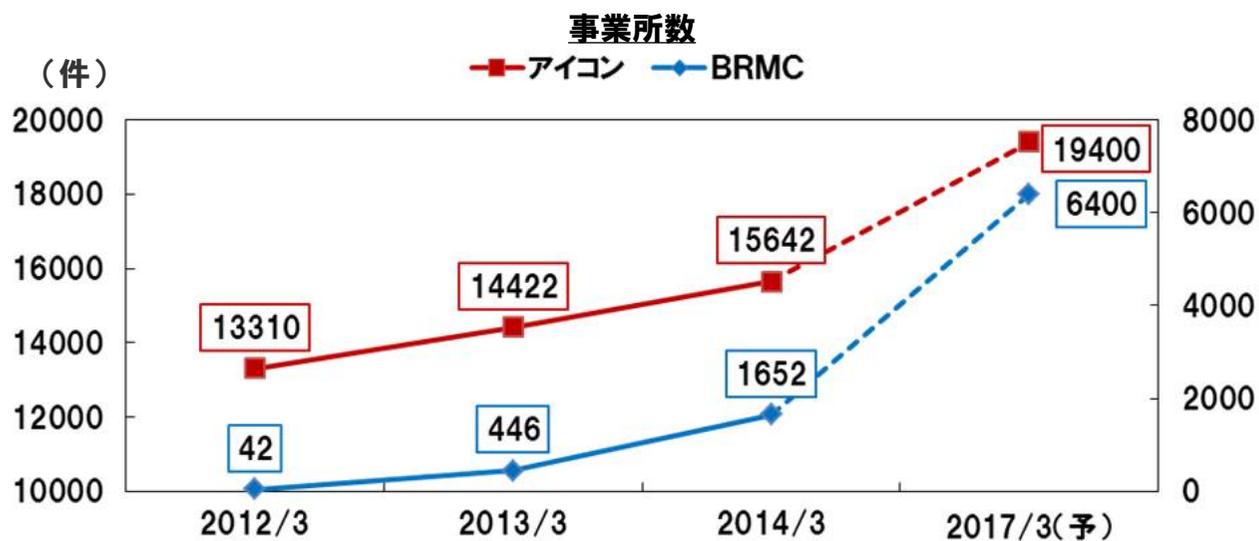
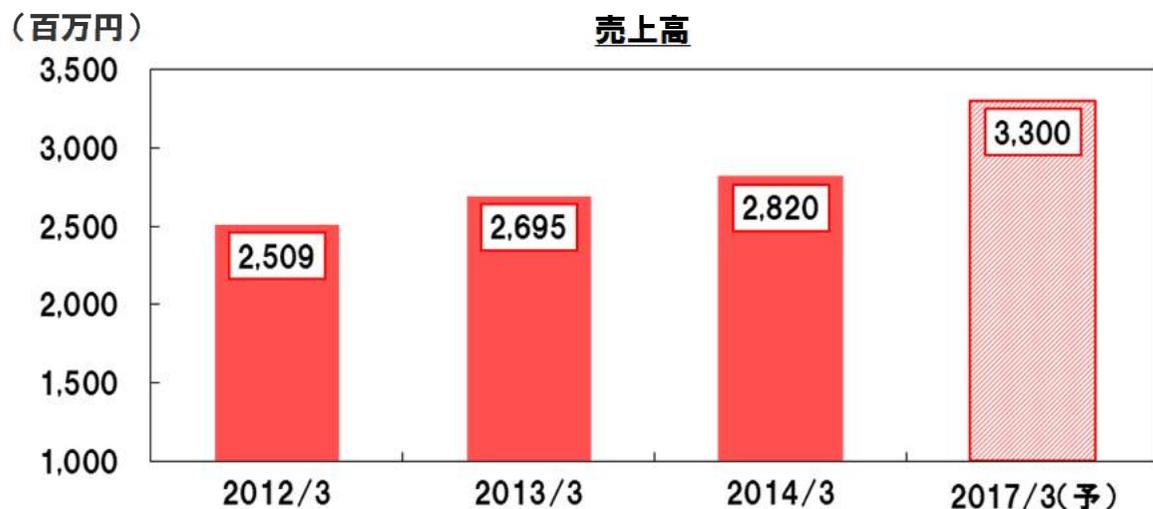
パートナーの拡大
&
アイコンサービスの拡大

パートナーへの浸透

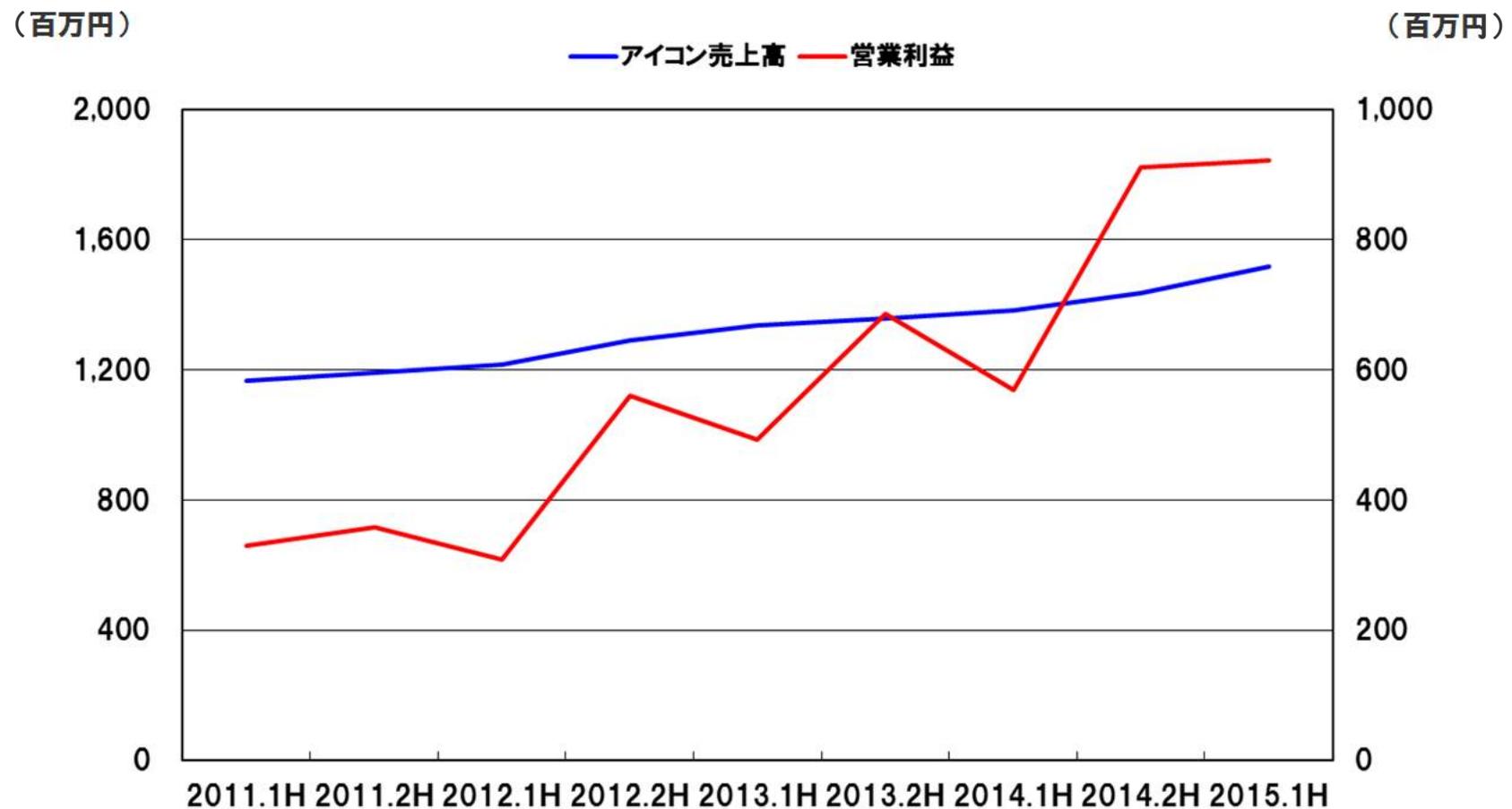
前年同期比122.8%増



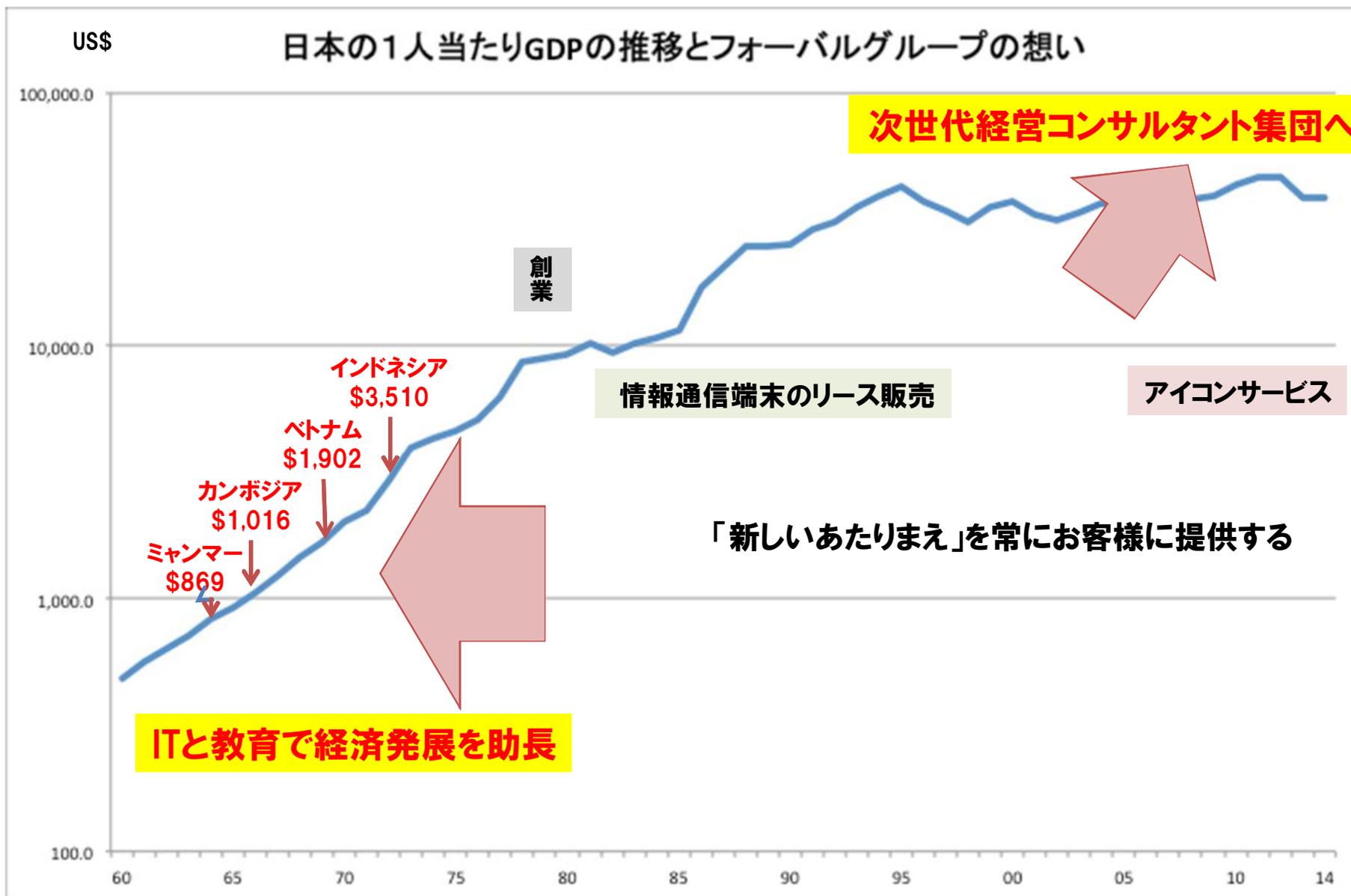
中期ビジョンとして既存顧客の50%浸透を目指す



高い相関関係



海外事業の取り組みと今後の見通し



FORVAL ASEAN進出支援体制の確立



ニョンチャックIII工業団地内 JSCベトナム(南)

ベトナム 南部

JSCベトナム(南)のポイント

- ★ 南ベトナム最高水準の地質条件！
 - ・ 立地は海拔 18 ~ 28M !
 - ・ 耐加重は 25t/m² ! (既存工場の耐加重は 40t/m²)
- ★ 南ベトナム最高のロケーション
 - ・ 新高速道路 IC より 4 km !
 - ・ ベトナム最大のカイメップチーバイ港湾群隣接!
 - ・ 新国際空港から 10 km !



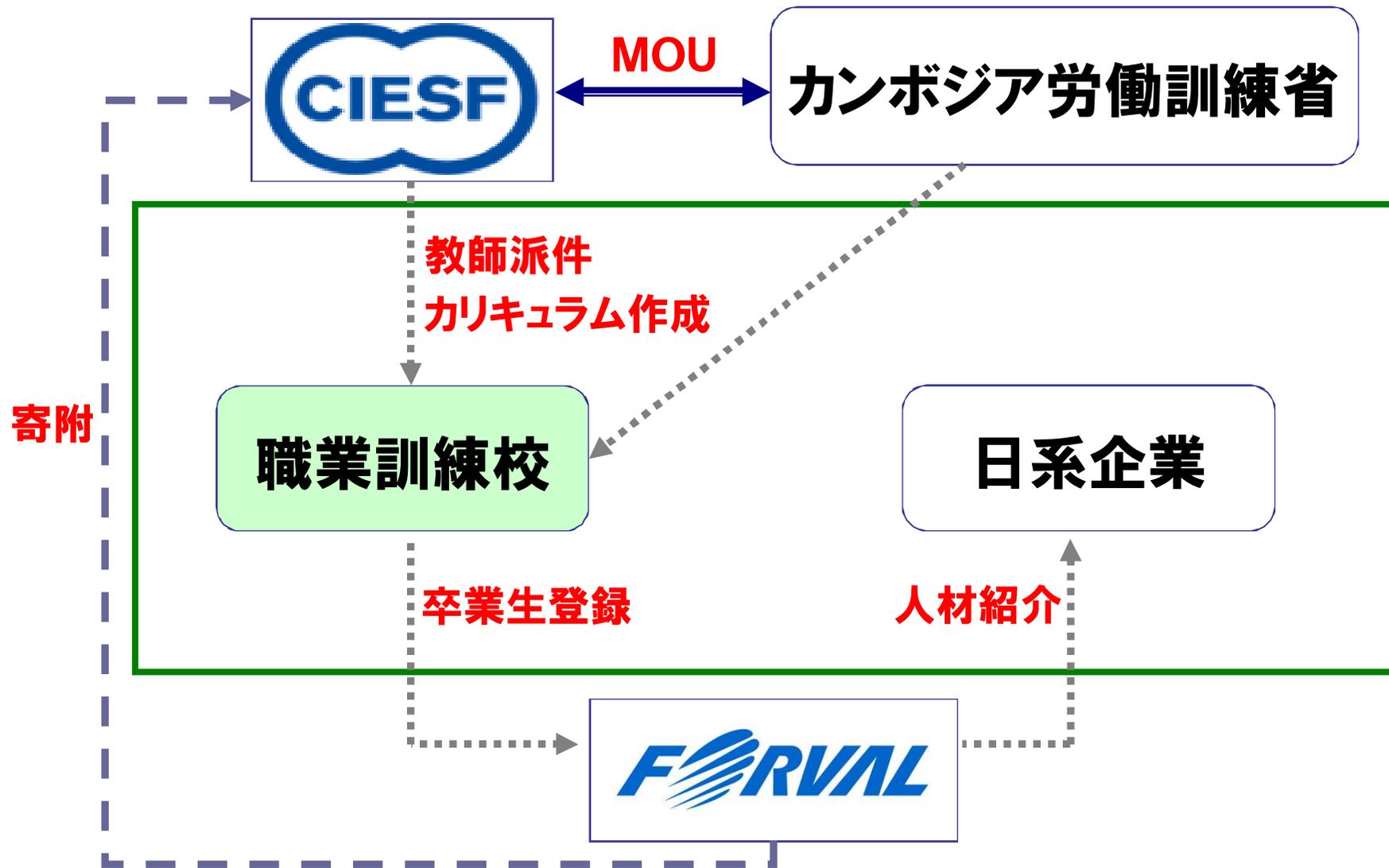
● 主な区画

- ◆ 第一フェーズ
 - ・ 完売 (2013 年末)
- ◆ 第二フェーズ (2014年 2月 ~)
 - ・ 288 m² × 24 区画
 - ・ 648 m² × 16 区画

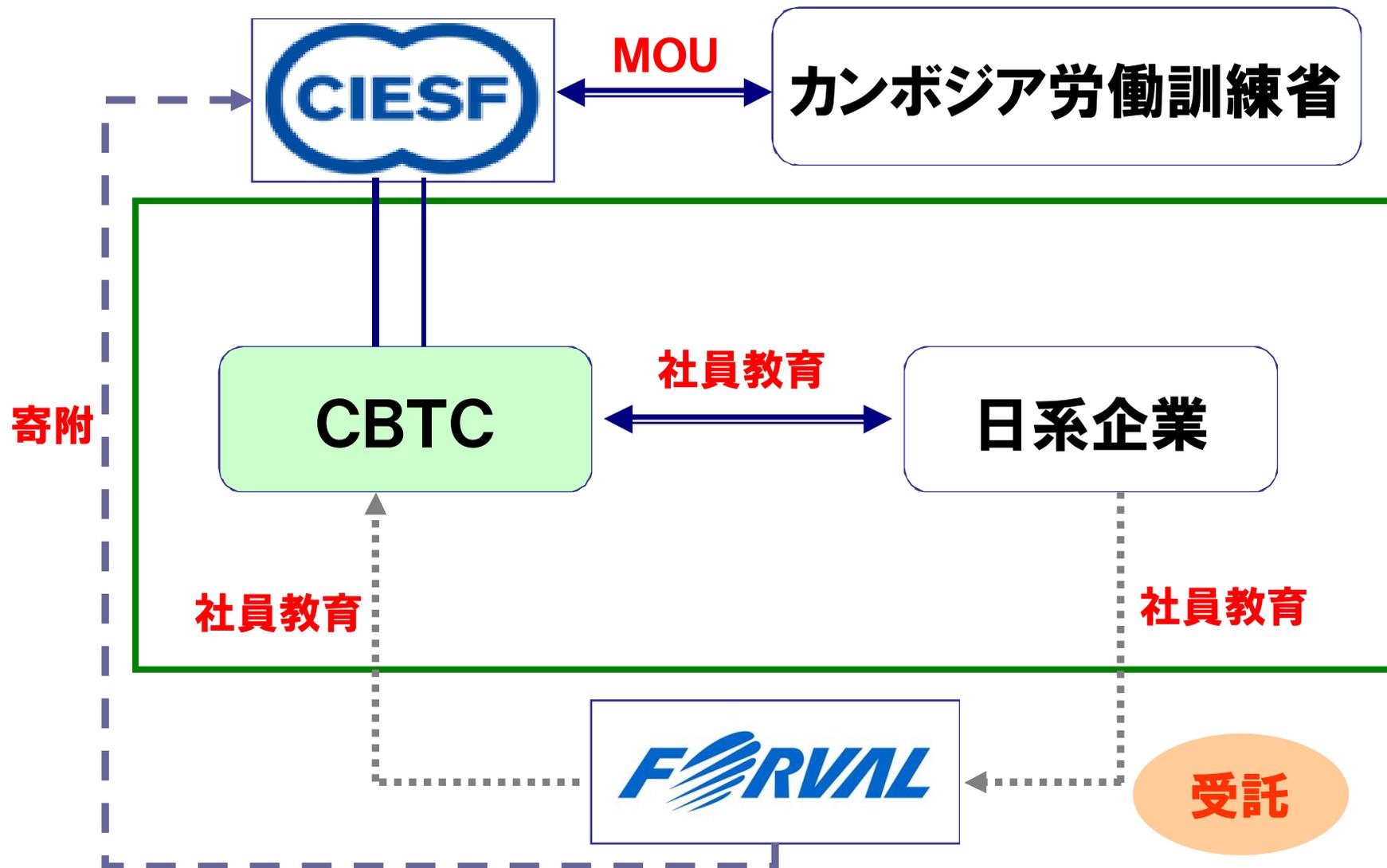
※ 区画は拡張が可能です。
※ その他タイプもご用意が
ございます。



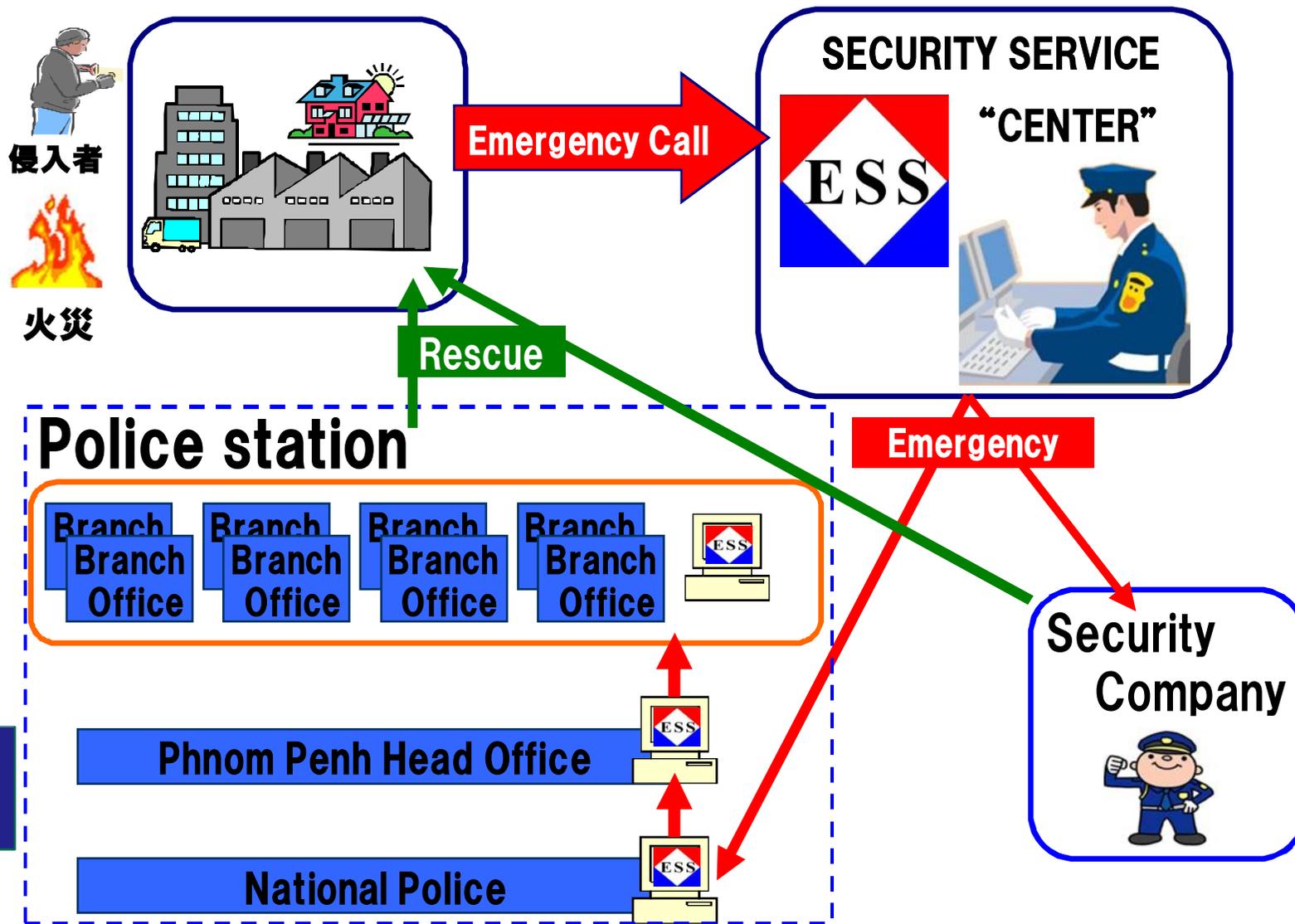
『人材育成による地域社会への貢献』



『日系企業の社員研修の受託』

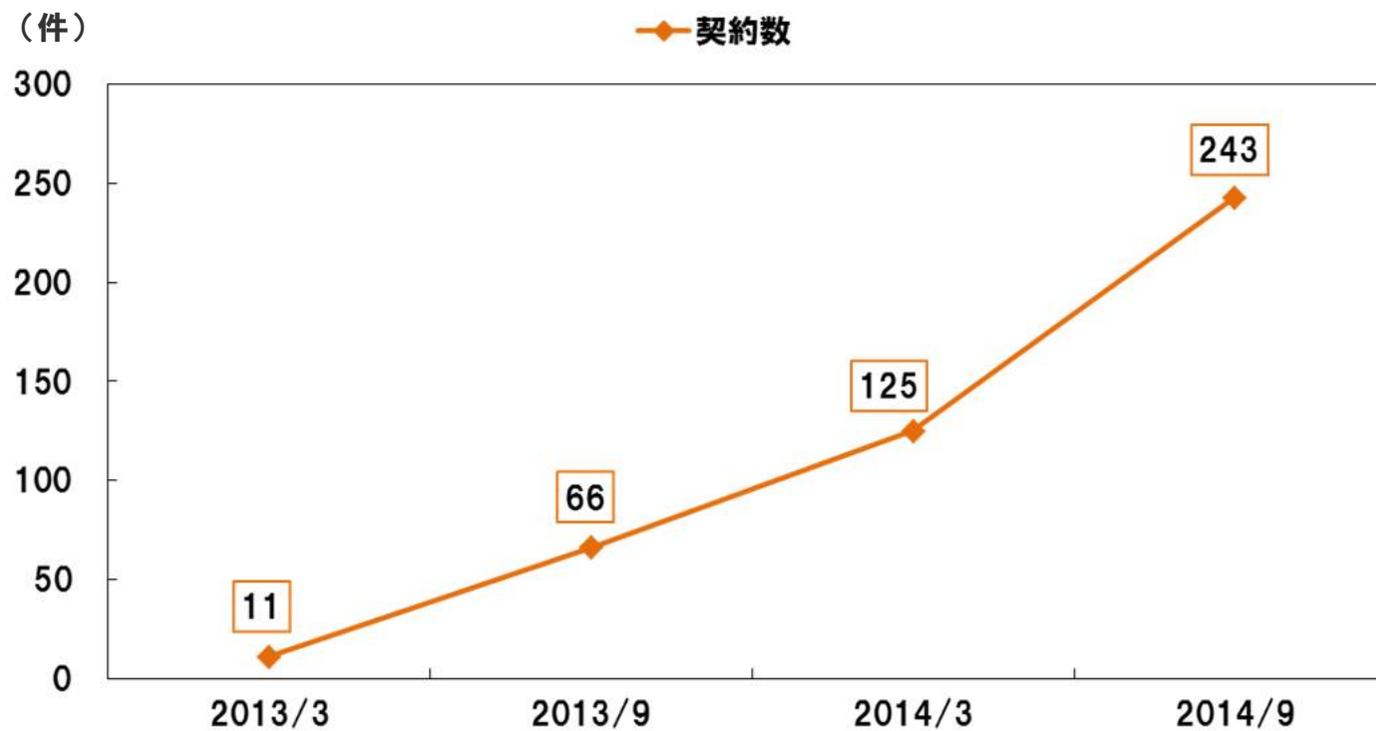


FORVAL E SECURITY SERVICESのセキュリティシステム概要



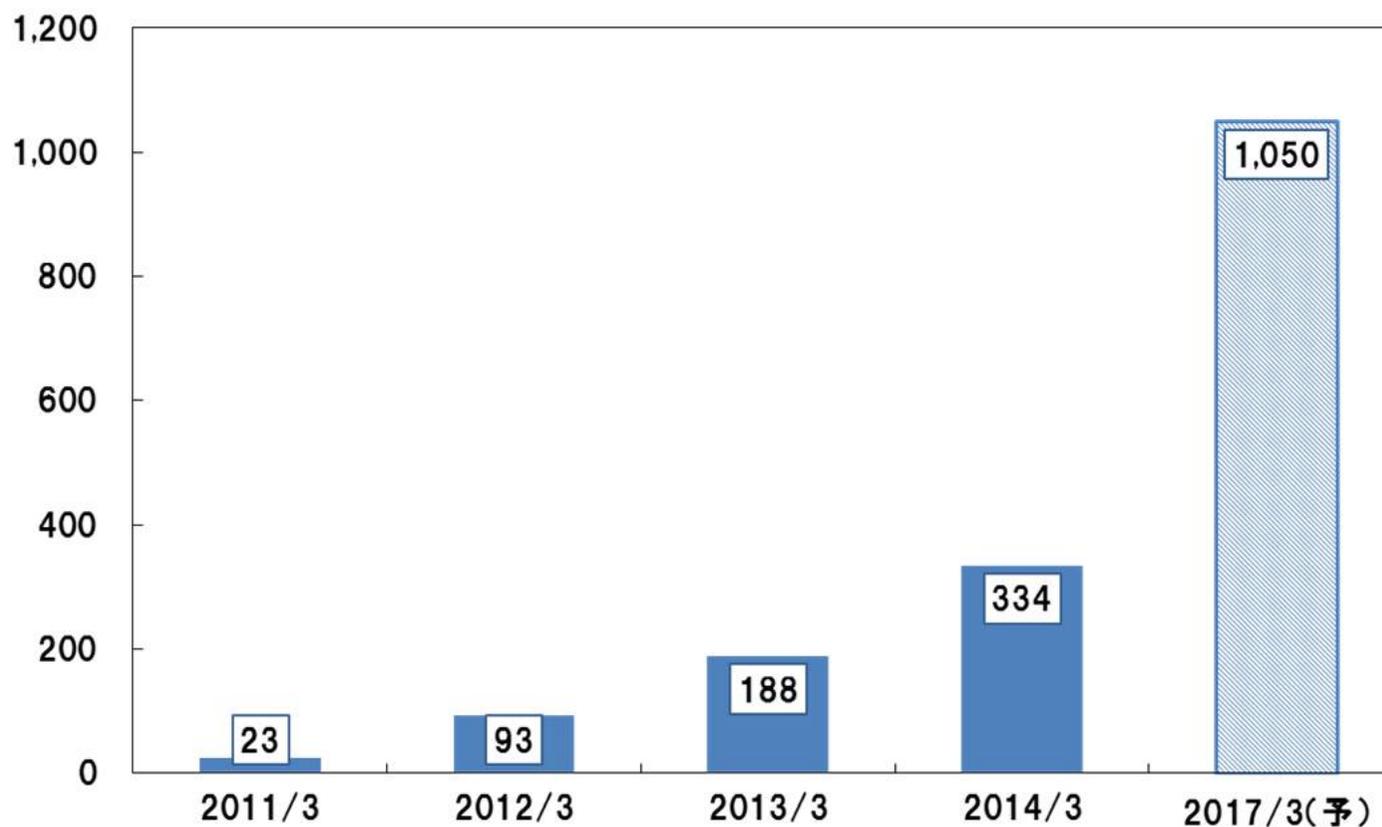
カンボジア内務省
 国家警察本部と
 10年間のMOU締結

今期に入って契約獲得が加速



海外事業(主要子会社4社)の売上高推移

(百万円)



※主要子会社4社:カンボジア、ベトナム、インドネシア、ミャンマーの各現地法人

将来の見通しに関する記述についてのご注意

本プレゼンテーション資料に掲載されている弊社の計画、目標、方針、戦略、判断、財務的予測、将来の数値・金額などのうち、歴史的事実でないものは弊社に関わる将来の見通しに関する記述であり、弊社の経営陣が現在入手可能な情報に基づく予測、想定、認識、評価、判断、前提(仮定)等を基礎としています。これらの実現については、様々な要素の潜在的リスクや不確実性を含んでいます。

なお、本プレゼンテーション資料は投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身の判断において行われますようお願い申し上げます。